



Hokkaido Lifelong Learning Association

# ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



(写真提供 三原和廣氏)

(撮影地 釧路市阿寒町)

## 目次

●年頭のご挨拶……………	2	●私の生涯学習……………	5
●これからの生涯学習を展望して……………	3	●随想28……………	6
●わがまちの生涯学習……………	4		



## 年頭のご挨拶

公益財団法人 北海道生涯学習協会

会長 宇田川 洋

皆様、新年明けましておめでとうございます。未年の輝かしい新春をお迎えし、皆様のご多幸を謹んでお祈り申し上げます。本年も当協会の趣旨に賛同いただいている多くの団体や個人の賛助会員の皆様には、一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当協会も一昨年4月より「公益財団法人」として新たなスタートを切り、実施している生涯学習事業も皆様の深いご理解とご支援のおかげで大きな成果を上げておりますことに対しまして、心よりお礼申し上げます。

北海道らしい生涯学習社会の実現のために、「だれもが、いつでも、どこでも」生涯にわたって学習を継続できるように①豊かな人生をおくる学習機会の提供、②技能のスキルアップを図る学習機会の提供、③地域や人づくりのための人材の発掘や育成を図る学習機会の提供、④生涯学習への情報提供と相談の四本の柱を立て、「生きがいつくり生涯学習促進事業」や「学習成果実践事業」、道民の学習ニーズや今日的課題に焦点を当てた「かでの講座事業」等を全道各市町村等のご支援をいただき多くの方々の参加を得て開催しております。

また、北海道教育委員会より受託している道民カレッジ事業は、道内8大学のご協力をいただきながら従来までの大学放送講座を新たに「ほっかいどう学」大学インターネット講座としてリニューアルし、動画配信と制作したDVDを市町村や高等学校等へ配布したほか、レポート作成学習会の開催など学習機会の充実に努めるとともに、全道2会場では、コミュニケーションスキルの向上を図り地域活動やまちづくりに貢献する人材育成をめざす「ほっかいどう学」地域活動推進講座を開催しております。

さらに、道民カレッジ事業に賛同する市町村、大学、団体等が実施する講座・セミナーを体系化し、道民の方々により確かな連携講座情報を広く提供することによりまして、多くの道民の方々が道内のいろいろな場所で自分が学びたい講座を選び、自己の向上に向けて学んでおり、着実に生涯学習の学びが広がっていると実感しているところであります。

平成20年度からは、ほっかいどう学検定合格者有志による、「歴史文化」や「自然環境」分野でそれぞれ自主的な学びを継続する「学ぶ会」が相次いで設立され、現在約300名の会員の方々が研究発表会、視察研修ツアー、会報発行等を通して会員相互の学びの交流が深められております。このように「学んだ成果を生かす」意欲的な活動が展開されているところであります。

当協会といたしましては、本年も、北海道教育委員会をはじめ関係機関・団体等のご支援、ご指導を賜りながら、道民一人一人の生涯を通じた自発的な学習活動を支援するため、全道各地域と連携を一層深め創意ある事業の推進や情報提供の充実に向け全力で取り組んでまいります。

皆様方の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 「これからの生涯学習を展望して」

北海道社会教育委員連絡協議会

会長 大島 峰 夫

私が社会教育主事として仕事を始めたのは、過ぎてみると早いもので、今から30年前の昭和59年である。時を同じくして、臨時教育審議会が4次にわたる答申で、個性重視の原則、変化への対応と並んで「生涯学習体系への移行」を提言した。これで、わが国における生涯学習の機運が一気に高まったことは、当時の仕事を含めた私の人生にやりがいと生きがいを与えてくれた。まずは、当時私が学習したことを振り返りたい。

## 1 学習を振り返って

生涯学習社会とは「人々が生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会」（平成4年7月 生涯学習審議会答申）とされた。そして、学歴社会の弊害の是正、社会の成熟化に伴う学習需要の増大への対応、社会の変化に対応するための学習の必要の三本柱から生涯学習社会構築の必要性が強調された。

## 2 昭和から平成時代への変化

経済も人口も右肩上がりの中で、受験競争があり、学園紛争があり、時には青少年の非行や校内暴力に吹き荒れながらも、ハングリーであったなればこそ家族や地域の人々が連帯し、それぞれに人生の目標があり、それに向かって生きてきた昭和の時代であった。

平成に入り、生涯学習社会の構築へと時代は変わった。私は常々、「生涯学習社会とは、個々の必要に応じて、いつでもやり直しのできる社会」と言ってきた。今、どのような社会に到達しているのか、その検証には余りにも私自身が力不足であるが、30年間を振り返ってみると、個々人の学習活動は活発になり、「いつでも どこでも 誰でも」という生涯学習の理念は市民の中に定着したとを感じる。

同時に、国立大学も学生募集の新聞広告を出す時代になった。国は、自動車やテレビの個人消費は落ち込んでいると嘆くが、そんなに買い替えが必要なものだろうか。節約、儉約、忍耐強さなどを美德とする道德観はどこにいったのか。人々の意識も変わり、これが日本人かと疑うような、家族間の悲惨な事件が頻発する。地球が悲鳴を上げているのか、「こんなことは経験したことがない。」という声が幾度も上がる災害が国土を襲う。確実に人も自然も変化している。

## 3 豊かさを、そして生涯学習を考える

わが国では近年、格差社会とか、貧困層の増大などの論調もみられるが、貧困とは、住む家がない、着るものがない、食べるものがないというような状況だと言っているのは曾野綾子である。また、国連によれば世界中ではなんと1日に4万もの人が餓死していると発表された。

この国の物の豊かさに反比例して、心が貧しくなっている状況は変えなければならない。生涯学習も国の教育施策の一環として推進されてきた。個の学習への支援が理念であった。今後の生涯学習を展望し、今後の日本人づくりを考える時、個から集団へ、学習から教育へのシフトを考える時期にある。人は何で学ぶのか。「人と人」との関わりの場が学習の場である。人と人とのつなぎあい、世代各層が出会う広場づくりなど、仲間・集団・地域を意識し、会話もなく一人ぼっちで手に持つ機器と向き合う生活のお母さんや青年、高齢者等の方々に対しておせっかいをできる人がたくさんいる社会を目指したい。

# 「わがまちの生涯学習」

剣淵町教育委員会

教育長 半田幸清

## ☆☆☆ 絵本の里けんぶちから 夢発信 ☆☆☆

剣淵町は、旭川市から北へ車で約1時間ほどのところにある人口約3,300人の「絵本と農業と福祉」の町です。町を舞台にして「人の優しさと親子の絆」を描いた映画「じんじん」が全国で上映され、「絵本の里けんぶち」として知られています。

### ■生涯学習のまちづくり

昭和62年に「新しいまちづくり運動推進委員会」を設置しました。同委員会は、町内の学校、社会教育団体、各地域の自治会・公民館分館、事業所などと、町・教育行政機関で構成される協働組織であり、生涯学習の観点に立ったまちづくりを実践することを提唱・推進しています。主な実践目標は次のようなものがあります。

#### 1. ふるさと運動

- ◎ きれいなまち      ◇環境美化運動      ◇花いっぱい運動
- ◎ たのしく学ぶまち      ◇芸術・文化・健康スポーツ活動      ◇絵本体験・読書活動
- ◎ ゆたかなまち      ◇愛町購買・地産地消運動      ◇ボランティア活動

#### 2. ふれあい運動

- ◎ さわやかなまち      ◇あいさつ運動（オアシス運動）
- ◎ あたたかいまち      ◇子どもの見守り・声かけ      ◇子どもの生活習慣づくり
- ◇地域活動参加（自治会・公民館行事）      ◇消費者保護
- ◎ おもいやりのまち      ◇交通安全運動      ◇家族のふれあい運動

#### 3. 生活見直し運動

- ◎ 暮らしの工夫      ◇家庭でできるエコ活動      ◇ゴミの減量、リサイクル運動
- ◇食育と農業体験      ◇時間を守る運動

### ■絵本の里づくり

昭和63年に「けんぶち絵本の里を創ろう会」が結成されました。会員は農家、商工店主、福祉施設の方、役場や農協の職員など様々ですが、以来町行政と一体となって絵本によるまちづくりを進めてきました。その拠点の「絵本の館」の主な事業は次のとおりです。



絵本キャラバンカーです

#### 1. 絵本の里づくり事業

- ◎絵本の里大賞～来館者が選ぶ出版絵本コンテスト      ◎絵本原画展・絵本作家講演会

#### 2. 絵本普及事業

- ◎絵本及び絵本原画の収蔵と閲覧、貸し出し      ◎絵本巡回文庫、学校等訪問読み聞かせ
- ◎土曜メニュー（おはなし会、工作教室、創作教室）

#### 3. 子育て支援・子どもの居場所づくり

- ◎ブックスタート      ◎出産記念「君の椅子」贈呈
- ◎ちびっ子遊びタイム（乳幼児親子）      ◎わくわく放課後タイム（小学生）

#### 4. 全国紙芝居まつり

今年の8月8、9日に本町で全国紙芝居まつりが開催されます。全国から多くの方々が集い、紙芝居を「語る」、「作る」、「演じる」、「見る」など、とことん紙芝居にふれて頂ける催しが予定されています。

# 私の生涯学習

道民カレッジ生 渡辺常雄

## 入会のきっかけ

今から20年ほど前、私は道渡して10年が経ち、仕事がそろそろ安定し気持ちにも少しずつ余裕が出てきました。その頃の私は教養が足りず、人情味に欠ける人間であると自分を評価していました。そのため、私は札幌市内をはじめ、近郊地域で開催する様々な研修会やセミナー、公開講座などに参加し、人間性を高めたい一心でした。あちこちつまみ食いをするばかりで、充足感もなく、向上したのか確認できず葛藤の毎日でした。

## 目標ができた喜びとその成果

道民カレッジ生は大学同様、コース毎に称号取得が設定されているため、私には大きな刺激となりました。これまでの学習要領とは違い、学んだ成果を単位認定で確認でき（実際に理解し身につけたかは別ですが）、学習する意欲が格段に高まりました。ハードル（称号取得目標）が少々高いと感じながらも、積み重ねれば必ず達成できると思えました。

私は、講座を開催する主催者や講師、時間帯、会場、受講料など考慮しつつ、興味を惹き、関心を抱かせる講座を取捨選択し学び続けました。最小1単位の講演会・セミナー、10数単位に至る大学等主催公開講座など、時間が許す限り受講し、単位を増やしていきました。もちろん、称号取得必修コース《ほっかいどう学》大学放送講座も。その結果、現在、博士課程2、学士課程1の称号を取得しました。

良い機会であるので、自分を振り返ってみました。入会前の自己評価は改善されたのか。私は人間性を高めることを目的に学んできましたが、果たして鑑定は如何に……。

その答えは、自己評価するよりも、他者、特に私と長く接してきた人が自分をどう評価するかの方が適確だと気付かされたこと、これが大きな成果です。

## 今後の課題

道民カレッジを通じて学ぶことは、単にモノシリになることではないと思います。まだまだ至らぬ自分を知り、人間としての精神を涵養し続けながら、周囲の人に良き影響を及ぼす人間になることと思えました。

私は、これからも生涯現役の気持ちで、学習を怠らぬことが老いを忘れ、人の世に役立つ人間になることを目的に活動したいと思っています。

## 道民カレッジに望むこと<機会の平等と多様性に富む社会の実現を>

道民カレッジの特徴は、性別、年齢、職業等に関係なく誰にでも平等に学びの機会があることです。受講生になるか、学習を続けるかはすべて本人の考え次第です。

しかしながら自宅の外へ出向くことが困難な人や、耳目の不自由な人など、障がいをもつ人にも公平に学習できる機会の設定を提案したい。テレビやラジオは無論のこと、インターネットを通じてパソコンやスマートフォン、タブレット端末などのメディアを利用することで可能と思われます。最近では、障がい者が使える機器も開発されていると耳にします。さらに双方向通信できる環境をつくることで、障がい者からいろいろな意見や要望を受けられます。

彼らが学習に参加することは、お互いを理解促進するだけでなく、多様性を進展させて豊かで秩序ある社会を築けるものと考えます。

随想28

### 若き歌人のことと子供時代

私の知人に若き歌人がいる。山田航（わたる）君である。今年10月に札幌市文化奨励賞を受賞されたが、過去に角川短歌賞、現代短歌評論賞、北海道新聞短歌賞、現代歌人協会賞、早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞などを受賞している将来の活躍が期待される若人である。彼は2013年から14年にかけて北海道新聞に「新世代・山田航の札幌モノログ紀行」と題するコラム連載をしていた。札幌の身の回りの光景や忘れ去られようとしている風景など歌を詠みつつ紹介しているのである。例えば、「定山溪鉄道廃線跡を歩く」として、ターミナル駅のひとつ豊平駅の線路の名残を紹介し、「葉から葉へ渡されてゆく夏陰が今まぼろしの鉄路を越える」と詠んでいる。

この定鉄のスタート駅の旧豊平駅になぜ私が気を留めたのかというと、この定鉄を小学1～2年生の頃、しばしば利用したからである。私が生まれたのは定山溪の奥の本山の豊羽鉦山で、2歳までそこにいたらしいが私の記憶にはない。3歳になって今の南区石山に移った。山田君は「豊羽鉦山と昭和の後始末」や「石山から見える軟石と硬石」などと題して紹介してくれたが、懐かしい限りである。特に石山緑地は、國松明日香氏ら5人

の造形集団CINQ（サンク）の手で一部を古代ローマのコロシム風にした公園で、札幌軟石の採掘場跡地を利用したものである。小学3～4年生の頃はここで先生に隠れて遊んだものである。採掘場跡は危険であったが、男の子の遊び場としては多少の危険があったほうが楽しかったのである。この緑地のある高台から豊平川を挟んで対岸に硬石を採掘していた硬石山（かたいしやま）が望めるが、山田君はここで「かたい石やはらかい石ぼくの手をすり抜けてゆく砂が持つ意志」と詠んでいる。この札幌軟石で作った郵便局や倉庫などの建物は今でも各所で活躍しているのを見るのはうれしいものである。

このように、私が過去を懐かしみ石山のことなどに触れているのは、もうひとつの理由がある。先の石山緑地への上り口にかつて祖父母と伯父の家があって、小学3～4年生の頃はほとんどそこで暮らしていたからである。少し下流の今の藻南公園は、おいらん淵と呼ばれており、花魁（おいらん＝遊女）が身を投げた場所と伝えられていたが、そこと上流側の十五島公園は格好の遊び場であり、水泳の練習や魚釣りをした思い出がある。このような原風景や子供時代を思い出すのは年をとった証拠なのであるが……。

（公財）北海道生涯学習協会  
会長 宇田川 洋

### ご寄付、本年も

### ありがとうございます。

平成26年10月31日一般社団法人札幌ゴルフ倶楽部から、社会教育事業に対する助成として、昨年と同様に本年も、当協会に寄付していただきました。心から感謝申し上げます。

### 事務局からのお知らせ

#### ●生涯学習協会賛助会員募集

賛助会員：個人会員 3,000円  
                  団体会員 10,000円

会員の方には、会報「ほっかいどう生涯学習」（年4回発行）を送付させていただくほか、「かでの講座」の優待券（2回無料）と400円での受講（通常500円）ができます。

また、賛助会費（寄附金）は、税制上の優遇措置を受けることができますので、詳しくはHP（ホームページ）をご覧ください。

### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。穏やかで良い年となりますようご祈念申し上げます。昨年11月末、生きがいづくり生涯学習促進事業で泊村を訪れました。講師をキーパーソンにして、泊村寿大学の皆さんと泊小学校の児童のコラボレーションは見事でした。グループ内での発表で、小さな声でもそもそと話す子に「〇〇ちゃん、声小さいよ！」と6年生のリーダーが声をかける。〇〇ちゃん余計に萎縮して声が出ない。最後は目に大きな涙。……後から〇〇ちゃんにそっと声をかけ励ましていた寿大学のおじいちゃん。発表が自分の順番になり緊張しまくっていた寿大学の

おばあちゃん。……小学生のように初々しく見えました。全ての交流が終わり、最後に各学年の代表が寿大学のおじいちゃん・おばあちゃんにお礼の言葉……なんと声の小さかった〇〇ちゃんが見事なお礼の言葉……担任の先生ナイスキャスティング。子どもたちの素直で純真な心……大人が学ぶことがいっぱいあるような気がします。子どものころの素直で純真な心……いつころからこの心に雲や霞がかかるのだろうか……？ 今年も、少しでも素直で純真な心も持ちつつ（無理かな？）、業務に邁進してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。